



日章学園九州国際高等学校校長便り 霜 月
建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す
学園スローガン： **やり抜く力**
学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。
令和3年(2021年)11月1日(月) 校長 屋田伸仁



人事を尽くして 天命を待つ



10月4日に本校の体育館で、えびのの菅原神社の神主さんをお招きして、合格安全祈願をしていただきました。本来なら、新年の初めに、今年一年の安全や無事を祈願する学校行事でしたが、3年生はこの10月から、大学受験、専門学校受験、就職試験が本格的に始まります。高校生活最後の3年生にとっては、合格できるかどうか最大の関心事であり、心配や不安もあります。そこで、合格安全祈願祭を10月に実施しました。2年生、1年生も、参列しました。来年、再来年は、いよいよ自分達の番ということで、神妙な面持ちでした。

ところで、神様にお願いしただけで合格したら、こんな楽なことはありません。そこで、神様との向き合い方で、昔からよく言われている、ことわざをひとつ紹介しました。

「**人事を尽くして、天命を待つ**」自分の力で最期の1秒まで、徹底してやり抜く、やり尽くす、それが、人事を尽くすという意味です。その後の結果は神様に任せなさい。「**人事を尽くして、天命を待つ**」という、最後まであきらめないで努力する生き方をしてほしいと思います。

3年生の皆さん、皆さんの活躍や健闘を、心から応援します。がんばってください。



裏を見せ 表を見せて 散る紅葉



春は英語で **Spring** です。辞書を引けば、春以外に泉、バネ、跳ね上がる等の意味があります。春の日差しを浴びて草木の芽が出たり、虫が這い出るイメージです。秋は **Fall** と書いて、木の枝から葉が落ちるというイメージがあります。**Spring** や **Fall** から、西洋人の自然や季節の捉え方がよくわかります。

では、日本語の秋はどうでしょう。葉っぱが次から次へと落ちると、森や林は、しまいには枝だけの殺風景の「空き」の状態になります。それで、秋の語源は「空き」から来ているという説があります。葉っぱが落ちるのを見れば、そこに秋の情緒を感じずにはおれないのが日本人の心です。良寛の辞世の句に「**裏を見せ**

表を見せて 散る紅葉」があります。ただ、落ちていく情景ですが、良寛はそこに自分の人生を重ねました。人生の喜びも、悲しみも味わって、自分の人生が去っていく。秋の寂りよう感とともに人生の無常感も感じさせます。

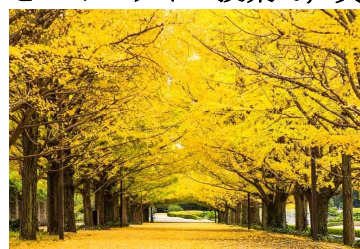
英語俳句に挑戦



本校の生徒達と鹿児島国際大学国際文化学科のマクマレイ教授&ゼミ学生達とのオンライン授業で、英語俳句の作り方を学びました。



【オンライン授業の様子】



左の銀杏並木の写真を見て、本校の生徒が英語俳句を作りました。なかなかの力作、秀作です。



- ① **Yellow sky beautiful autumn permanently**
- ② **Bright ginkgo the flower of road autumn day**
- ③ **I love you I fell in love like autumn leaves**